

佛國史

往昔羅馬の衰

隨て日耳曼の

蠻夷等蜂起し羅

馬を叛て去の國

と蠶食し自らア

ラック人種と稱

し之より先きア

ラックの稱呼と

佛蘭西

佛國ハ歐海の

大國として西北

北方を日耳曼

以て國名の始と  
せり降て紀元四  
百年代フランク  
の酋長屢羅馬と  
接戦—自立して  
まの國の始祖と  
されり其後その  
四子邦土と分領  
して此國の大乱

比利時瑞士以  
右利等の國尔  
境—南力八地  
中海と隆と山

ナポレオン帝三世之肖像



拿破崙帝第三世

領を備了。西班  
牙尔鄰。也全  
國凡三萬三  
三百八十方里

を醸し争闘止ま  
ず骨肉相食むの  
勢に至り累世の  
沿革は随て各邦  
の酋長等威力と  
恣一王政次第は  
衰微せり就中全  
権ハ大臣貴家の  
手ニ在て事と裁

又人口は

三千六百四十

八萬九千餘を

て地勢は至り

判せしをり紀元

六百年代ペピン

及チヤールスマル

テルの在世中尚

昔日は異ありび

互は兵馬と勞し

人民を苦窘せり

其後「ペピン二世

者佛王を廢

ハ。西水の全部

平坦なる所

丘陵をとお布

以東、梨、葡萄

して自立し羅馬の法皇と好と厚し羅馬の仇敵希臘等を征して侵地を復せり紀元七百年代「ペピンの太子」チャーレマに即位せり各國と遠征して于戈

五里次申小峻

嶺の土地多ク

國境の首高山尖

峯君立せり大

を休ふる大版圖を横り遂

は法皇の許可と

得て帝位を登り

紀元八百年代

ロイス帝の世と  
より其三子互に  
争闘し兄弟相攻  
るの乱に陥り王

昭豊統の土地

ありて人民力

と非密せり孝

作就中は溫和

權衰へて民間の  
 紛擾甚しく天下  
 王まをぐ如し  
 紀元九百年代チ  
 ヤーレスセシシブル  
 の世に至りハルマ  
 ン人入寇一大  
 國力疲弊して終  
 領地と裂き與

北と南にハ  
 冷温の差あり  
 依備河の急流  
 多都て葡萄の如



佛巴黎市街之内景

培農多く其種  
 穀の酒を醸し  
 各邦へ輸出す  
 其甚夥し

各國生業

卷之二

五

へて和議と講せ  
り之より「ホルマン  
の國勢益隆盛よ  
赴り「チャールス  
ゼシンプル位を廢  
せられ「ロルフ位  
又即り「歴世王  
室一盛一衰「諸  
侯貴族等互又吞

教宗ハ舊教を  
信仰一又人民  
の種族と混濟  
をわ。亦東は國

啖「私威を逞う  
邦土を掠奪を  
る等のこと多く  
年月を費を久し  
紀元九百八十年  
代「ヒューゴカペ  
の世より十六世  
諸王の在位中内  
外の争乱多しと

此政體を歴世  
君主の治の王  
國ありきと。又  
其化の大亂ふ

雖ども積年の治  
革も因て或の治  
り或の乱と興廢  
存亡の事少あ  
らす然れ共諸王  
力めて國事と親  
裁し隨て民間禮  
讓と重し不羈獨  
立の風と帯び自

了。身破崩帝出

よ。架歐羅巴

海。跋扈。治

乳。興廢。一。盛。一

主自由の權を欲  
せしより漸く大  
家貴族の私威と  
抑制し政權の王  
室に歸せんとい

者。一。國の憲法

一般の國民大よ之  
と希望するの形勢  
に至るり次てジ  
ヨシ二世の即位と

七。乃。多。ら。以。身

破。崩。三。世。一。五

破。崩。三。世。一。五

ヨシ二世の即位と

一。は。己。の。威。權

ありけり其後英兵  
 入寇し大に佛兵  
 を破り佛王ジヨン  
 を俘とせり終に  
 佛王の英國の繯  
 継中死せり紀  
 元一千三百六十  
 年チャールズ五世  
 位に即り數十年

成運し久く民

権を抑束し

海外を蔑視し

より遂に去歲

佛ロスケイ入江之夜景



普國との大乱

を醸して廢帝

如土也かるを再

共和政治を



前より外敵は襲  
を邦土を失ふこ  
と甚大なり就中  
ノルマン人跋扈し  
獨立國となり威  
力強大な及べし  
又英人襲來して  
佛の領地を侵略  
も然れども「チャ

立如法者す

お數十年百如

定制を維持由

ふ心と能を以

レ五世在位の  
間英王歿し其國  
内紛擾を醸すの  
機に至り侵地よ  
り英兵を驅て邦  
土を回復さるこ  
と少からず「チャ

民間ある法黨

故幕り君上を

仇視し互に激

動し水炭を賣

レ六世同七世  
の時代より争乱

各國生来

九

更ニ生ト内外争  
闘やまば又英佛  
の大乱ありて佛  
兵敗走一終ニ一  
千四百年に至て  
和睦を結べり年  
久しく互ニ干戈  
を交へ一より二  
國の疲弊まゝ大

千載の情舎ふ

五り残忍殺伐

し野蠻の遺

風も稍存せし孝。

外の大乱は従て  
賢明知識の諸王  
出沒し漸く諸侯  
貴族の権柄を削  
り人民工業を勉  
めて積年の艱苦  
と忘るが如し紀  
元千四百七十年

他ととも文學隆

盛ふ行れ鴻儒

碩学輩も出て

新書の数も

ロイス十一世  
 至り威權頗る王  
 室は歸一大家貴  
 族の領地を回復  
 して王土は屬せ  
 り紀元千四百八  
 十三年チヤール  
 ス八世即位せり  
 以太利と征一太

都人を為す

新寺を好む風

阿里丁言語巧

禮儀厚く又

接戦されども  
 全く勝敗を決せ  
 す尚イタリを歴  
 伏せり能る紀  
 元千四百九十八  
 年ロイス十二世  
 即位せり先王の  
 餘業を繼て以太  
 利は大軍を出し

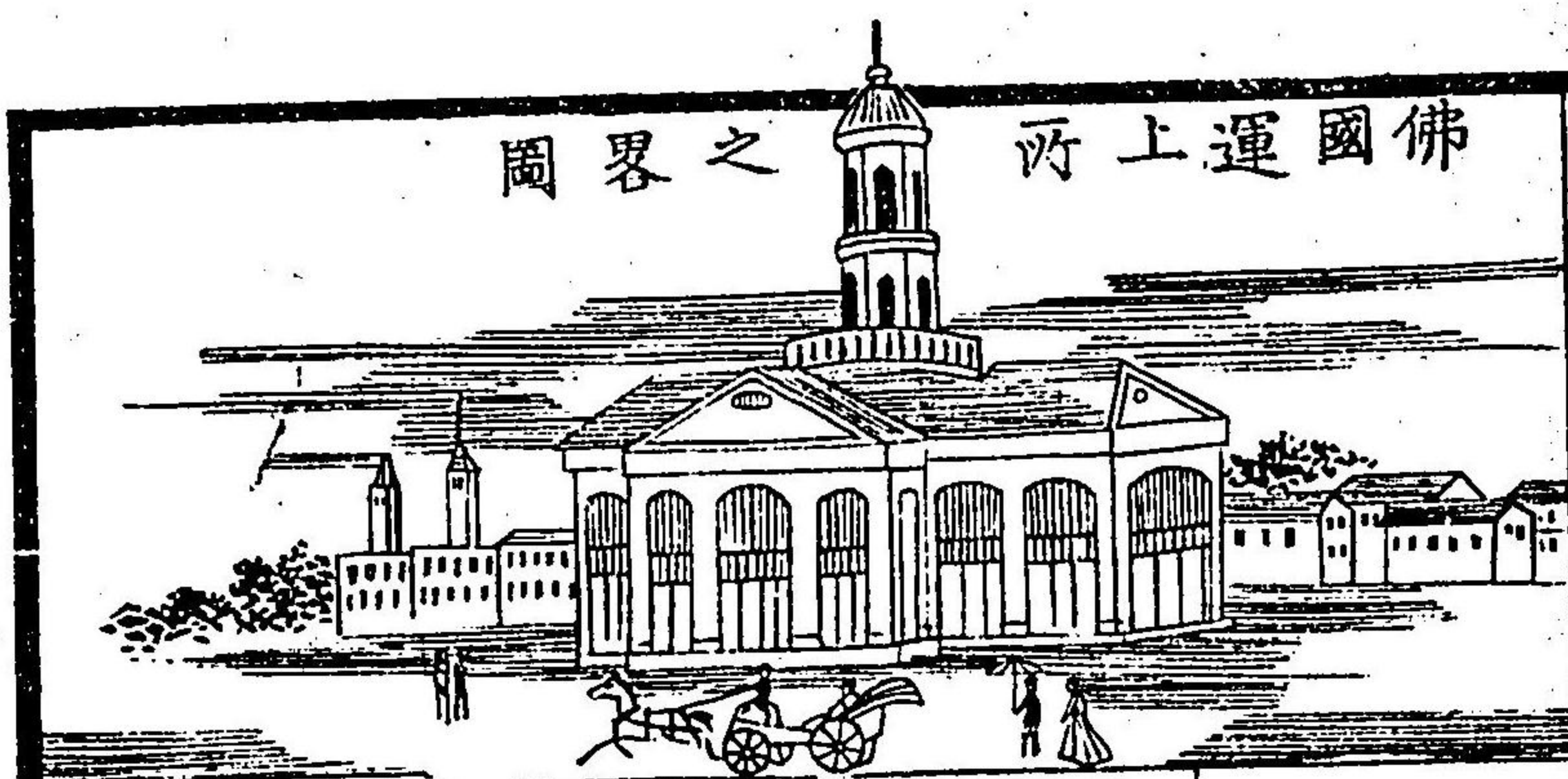
浮屠の流甚し

人口各の越成

異なり都鄙

小至るハ文化

佛國運上河之畧圖



の海深く

歐洲文明の國の

中等より居と云

此國より航

海は術ふ

く軍艦音船の

数少る

共會破岩三世

五、人命を失ひ  
大、財を費して  
功、成らば死して  
子、かゝる之を因て  
フ、ランシス一世  
と、迎立り又再び  
以、太利と戦を接  
一、大に利あり因  
て、日耳曼帝五世

虚を窺ひて兵端  
を開き日佛二國  
の大戦となり佛  
軍破れて佛王フ  
ランシス囚人と  
されり然るに佛  
佛國の威力撓ず  
復讐の策を求め  
更ニ武備と興張

乃力多依里追

代感一遠海を

跋涉り大不國

人の風習成変

華をわ蒸氣軍

艦鏡甲船の全

教をんを四百

船艘よりを介

まゝの勢なりへ  
又リ二世及び  
又二邦五ふ兵馬  
と動一三十年  
間の大争乱とを  
せり其の後紀元  
一千五百年代新  
舊の宗旨論起り  
黨類と結び國民

の大半新教に帰依せり政廳之を鎮撫するの策なく竟に舊教を助け新教の徒黨貴賤老幼の別なく盡く屠戮せり真に惨酷と云べし  
 一千五百八十九

高船一萬五千

船艘何れ巴黎

ハ正國の京都

人口凡そ



製作場之景

一百十五万

大なる多量ハ

凡新教の三分

一府内は市街

年へヌリ三世殺  
害せられへヌリ  
四世即位一數十  
年の混乱初て平  
和せり随てへヌ  
リ王の國事勉  
勵一人民の教化  
も次第に進歩を  
るふ及大志と戮

清潔よりて

層の峻字を列

層。玻璃よりて上

と蓋播をよりて

し遠征を出の期  
弒せられて死を

千六百十年ロイ  
十三世即位せ  
り母氏と不和と  
生じて混乱と釀  
すの際會宰相リ  
セリウ獨り萬機  
を謀て大乱に至

街道何里車馬

の生米は絡繹

として男女長幼

群集し巷中へ

らば三十年間  
イス全權と宰相  
に托し其力に依  
て大に國威と輝  
し内外の吏務を  
掌り赫々たる政  
體と確立せり其  
の他功業と奏せ  
しと甚大なり

多數の角斯燈

を輝映して五

彩人目眩驚を

伝又演劇場旅

紀元千六百四十

三年ロイス十四

世即位せり其の  
時、當て外國と

戦争起り事多端

あり國王幼冲は  
して事務と司る

能はず然れども  
賢臣名士の輩頗

店酒肆茶樓等

ハ殊小の華美の

奇の工を盡し生

化動物植物乃



協心戮力して共  
ニ國王と助け國  
礎を固まると急  
務とせり紀元一  
千六百六十二年  
國王初て萬機を  
自裁一六ニ英才  
を振て果斷けり  
且つ名臣等の力

國内博覧文

庫潤樂院病院

支院學校高等

細標ふの峻巖

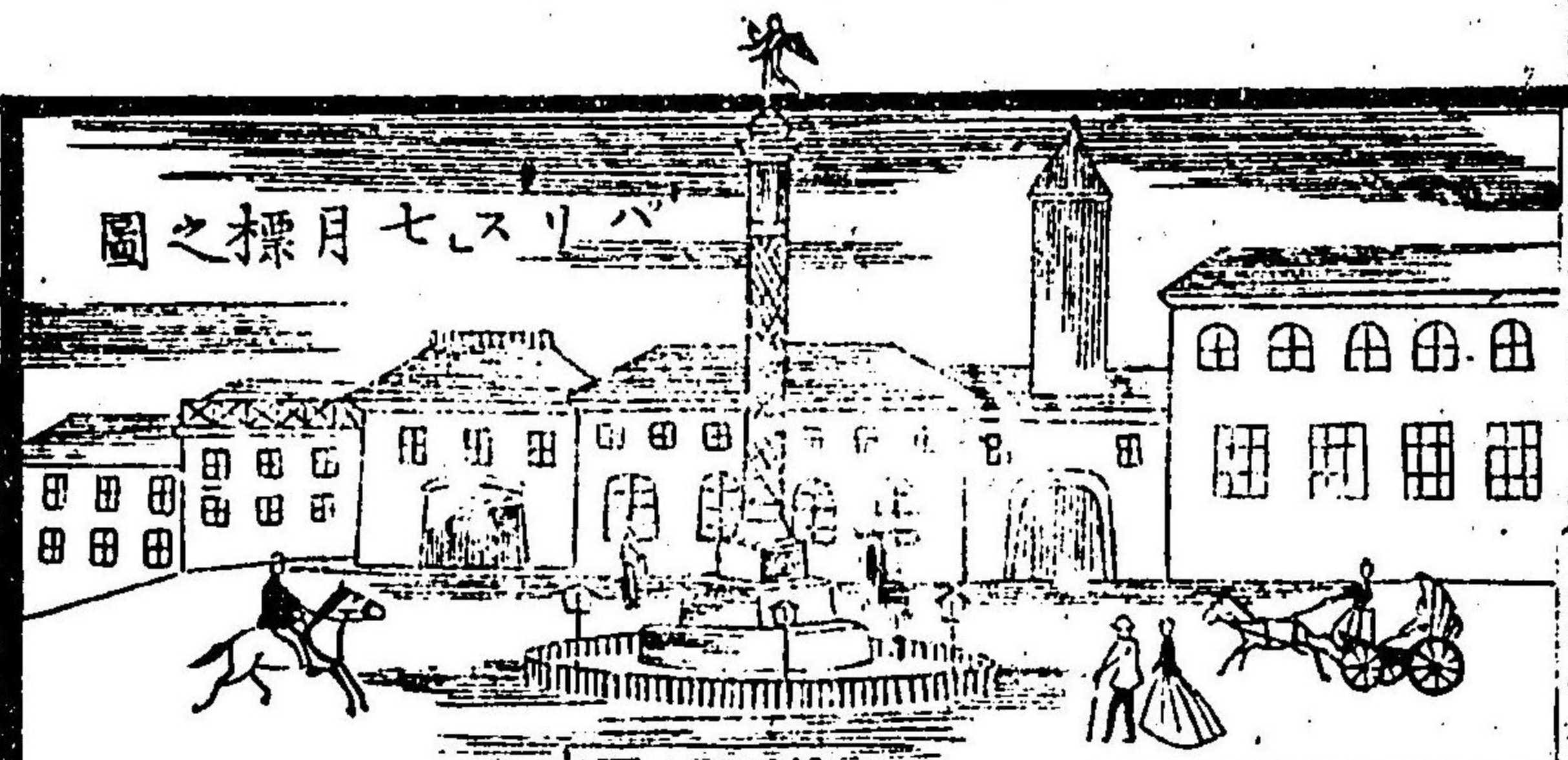
は依て民間漸く  
文明は進み利用  
の工業も次第に  
盛んあり紀元一  
千六百年代の末  
英蘭二邦の大乱  
起り佛兵ハ蘭を  
援け戦争方ニ關  
して殆ど歐洲

寄美を極め人

間富貴は一匹

るあり都人の衣

食家具ふあり



八都工奢偏秀  
 美を盡し珠  
 婦女子不倚羅  
 錦崇元を粧ひ紀

全國ニ波及す又  
 其後佛蘭の戦争  
 を醸し各邦兵を  
 出して蘭と援け  
 諸名将等大に用  
 兵奇籌の巧拙と  
 争ひ一勝一敗  
 各邦の兵力殆ど  
 衰微せり終に紀

馬也輕車自行  
 加多き存國等小  
 雲糸を富盛乃  
 快樂を極也

元一千六百七十  
五年各邦會議  
て和睦と講す佛  
國の全捷を得て  
邦土と擴め武威  
と海外に轟せり  
その後又各國連  
合して佛國の威  
權と削らんあし

國內交易と不繁  
造の場存何里  
て何計諸器械  
を製陶器馬車

と欲し又離反し  
て他國を討ち諸  
州兵乱と蒙らざ  
らばし多年間の  
星霜と費し限り  
けりこの國財を投  
じ惜むべきの人  
命と損失して治  
乱興廢の更止む

蒸気車絹布紙  
糖紙類等を製  
出し海外交易  
を盛んせりて歐

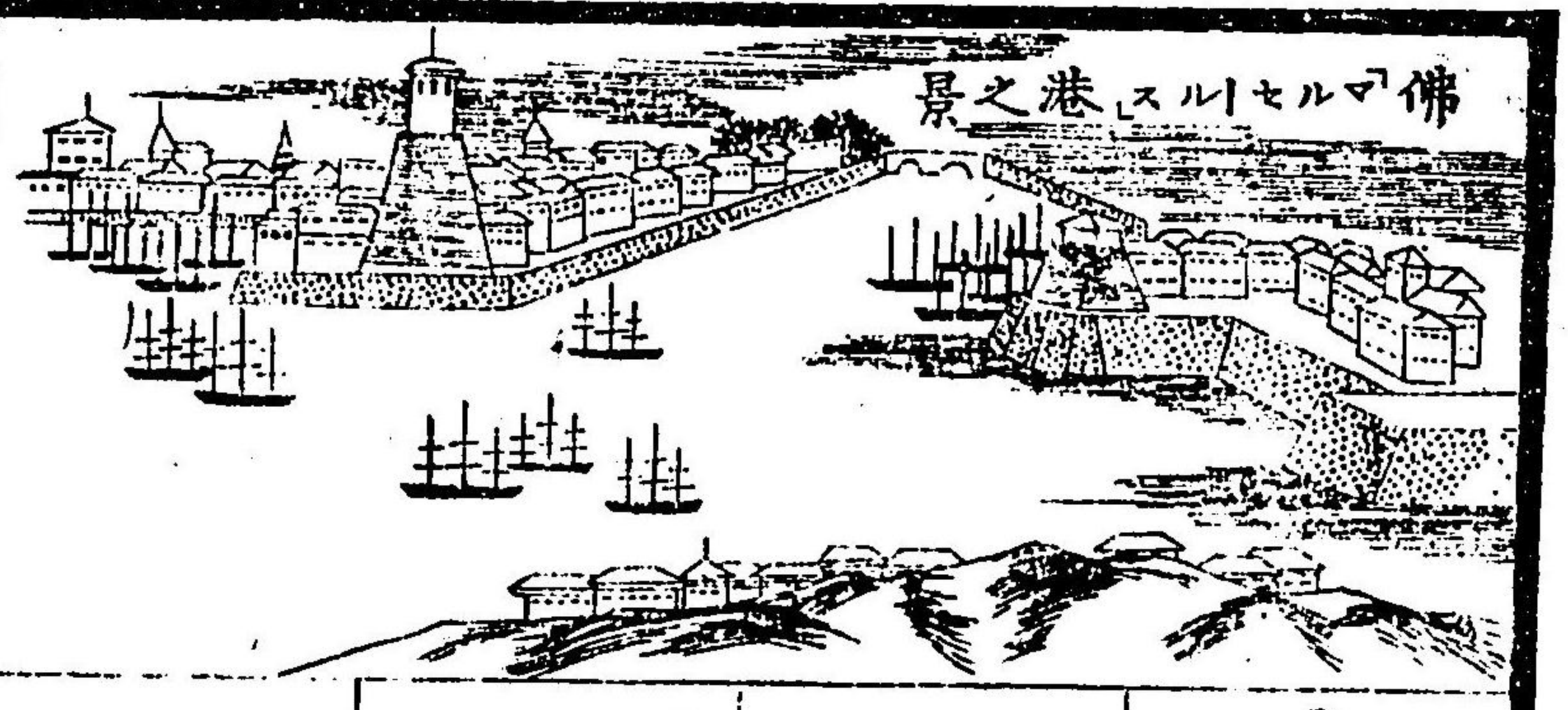
多一于時紀元一  
 千七百十五年ロ  
 イス十四世死  
 「ブルボンジ」の君  
 と迎て國王とせ  
 り則ちロイス十  
 五世也先王以來  
 の戦争して國力  
 の衰つると更よ

海牙一の福祉

と云る由察

日耳曼

日耳曼の強海



中央の國は福

るに西ハ佛郎

西比利時和蘭

小域一有るに亞

各圖世界

歐洲

二

振起せんことを  
欲し蕪格蘭の人  
ロウと云つる者  
の策は依て紙幣  
を製出し人民之  
と賣買する甚大  
なり終み紙幣代  
價の高下は依り  
商人の産と失ふ

得無海不濱

以右利瑞西

接北波羅

的海は臨み東

ハ魯西亞肉牙

利尔界其内

北大國を澳地

利普魚子二國

者亦勤りらず之  
がため國內平穩  
なり終るロウ  
も大策と失ひ他  
邦は出奔せり紀  
元一千七百年代  
日耳曼國帝を廢  
して澳地利の邦  
土と分領せんこ

とと欲し普魯士  
 突然兵端を開き  
 争乱とす其甚急  
 なり佛國其機會  
 は乗じて数万の  
 兵を擧げより英  
 國の日耳曼帝と  
 援けて佛軍は抵  
 抗し争鬪やまじ

その生ふの數多

如山國より區畫

ち其數殆ど二

百何里とす

終日紀元一千七

百四十八年に至

て和議を結び再

び女帝の日耳曼

の國位を復せり

其後海外の所領

は於て英佛大に

干戈を接し英兵

利を得て諸邦を

拿破崙一世は

大亂あり國勢

大に減増愛華

して二十二年

領地を得る沙り  
らび反して佛軍  
の英の為は七年  
間の大戦は窮ら  
る海外の領地を  
失て皆英の版圖  
に屬せり隨て佛  
國の次第は衰微  
し人民の困窮甚

同盟し。國を

是より一。次ハ

普國より大。小

強弱の別より

然れども中人  
以上の國民は至

わ國の順序を

ての大は奢侈を  
極め淫逸は流を

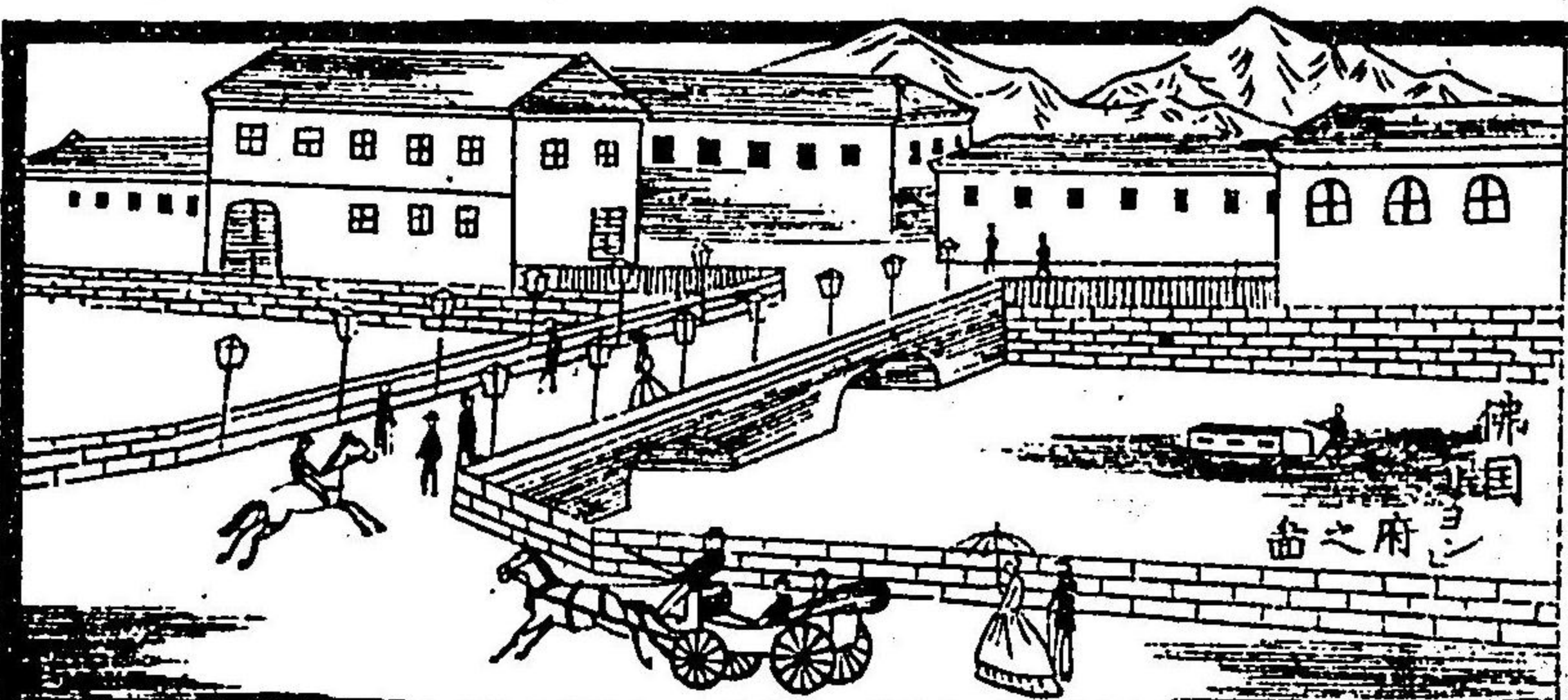
定し。不。換。普。二

り有官の吏人も  
政府の金と貪て

邦の競争より

飲食は供し強暴  
の徒は豪家の財

遂不。普。玉。の。金



捷と相り填國

を以て回響の

名氏除き普國

ハ益威力を得

て北南二部の

列國を統轄し

去歲吾佛の大

戦より一層互

實を掠て酒色を  
恣一政權地は隨  
て真之と抑制す  
る能さるの形勢  
及び國民の醜  
体見らる堪を再  
び野蠻の風俗を  
回復せらるが如  
く遂に紀元一千七



百七十四年ロイ  
ス十五世死ロ  
イ十六世即位  
せり去の王ロイ  
ス十五世の嫡孫  
よして従来祖父  
の不良ふる行を  
嫌ひ即位より大  
み努力して因襲

威強大乃國勢

空ふ里終ふ善

王を兼て日耳

曼帝の位を登

の悪弊を一洗せ  
んことを欲し新  
律を施し一時人  
望を得ると雖と  
も又苛激は過ぎ  
更は人心を妨害  
して數十年の大  
争端を開きしり  
紀元一千七百七

り。その威名四海

ふ轟けき其全

國の表面を三

美らふ子二百五

十六年亞米利加の住民英政の惨酷を怒り本國に向ひ民兵を挙て干戈と動きこと甚し之は依て佛國と首魁と西班牙和蘭も亞米利加人の乞

十方里又人口

七四千六十九

英解現今ハ五

國公國大亦如

二十五邦一區

分其地勢

南方ハ山脉連

互りて高原角

求應て援兵數十萬を出し英の官軍と戦ひ大に利あり之は依て英國政府より終る米國の獨立を許可し各邦兵革を収めて本國に歸せり然るは

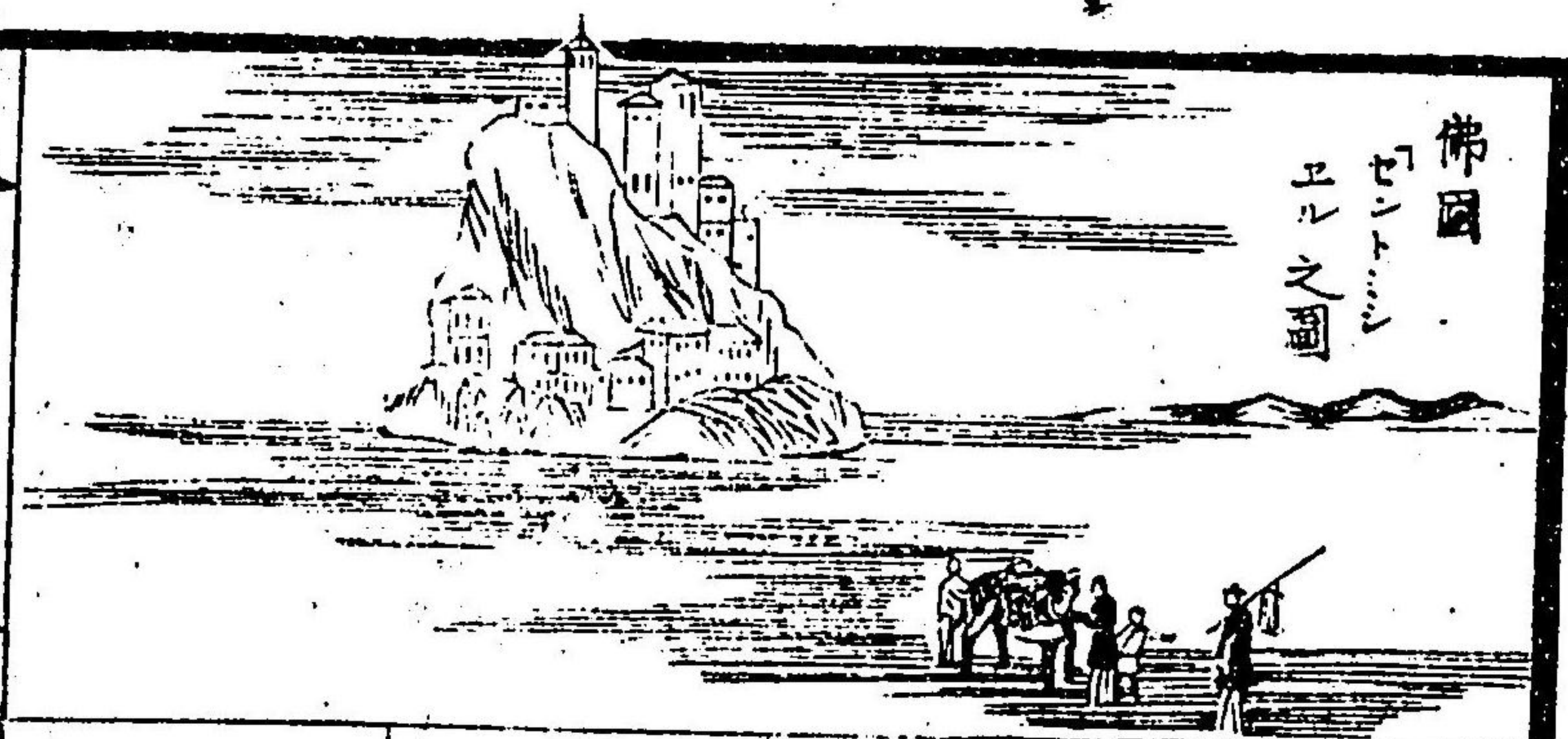
佛兵の年久く米  
 國はありて共よ  
 苦樂と同居せし  
 より佛人の不羈  
 自立の風化は浴  
 佛國の政事と  
 悦むに終は國內  
 喋々たる物論起  
 り互は黨と結ひ

く西方の嶽山

地より山林鬱

木森や一を好む

里北方を平原



曠野より海濱

りまを直達ふ

里又北の海濱

を多く砂磧の

各國生来

卷八

廿七

論緒乱て絲の如  
人民國會と稱  
して自立の状と  
ふ政廳を蔑視  
して其威權を畏  
ず事変忍ち破て  
官兵と戦と接へ  
屢官兵と破て大  
りあり其勢恰

平地を以て全國

の地味不同奈

り然とて大略

豊饒肥沃の土

地多く五穀は

數種を培養し

其他の産物亦

夥し一般亦國

も破竹の如し又  
政事改革を拒む  
者の貴賤を問む  
皆之と屠戮し遂  
は國王と廢し人  
情止むべきもの  
の勢よく無罪の  
王と死刑を處せ  
り原来人民とし

古今圖書集成

卷一百一十五

て自主自由の權  
と得せしめ王推  
と削らん事と欲  
一これ共遂は本  
旨と謬り今日の  
強暴は陥り其殘  
虐の甚しき論と  
俟ず却て國內の  
大乱とあはり外

民の風俗と淳

朴とて又慤忍

の性質あり百

般乃學藝化業

國ハ佛の景況と  
倚觀するは忍び  
す同盟の各邦兵  
と舉て佛と征討  
は之より先佛國  
争と鎮め漸く兵  
器と整へ内外の

致勉勵せり。性

考よ衆賢の知

後ノ輩何りて

教化四隅ふ洽

各國主夫

廿九

夏と治て殆ど共和政治の状とみせり于時紀元一千七百年代の末に至り佛國の大軍は將より者い拿破崙方巴圖なり英邁豪氣の智勇と振て各邦と

釋し又の進

歩と駿速ハ誌

科の學校ハ設

あり獄中とて

侵畧一殊は英國

と大戦せり佛兵

の陸戦は大利と

得海戦利は

英軍の陸戦は敗

走して海戦は全

勝と得ざるまじ

兩軍殆ど雌雄と

決まる能るは恰

と學校を備へ

罪人を教諭ふ

し修身の道と

祝明一善よ勸

各國生來

卷之二

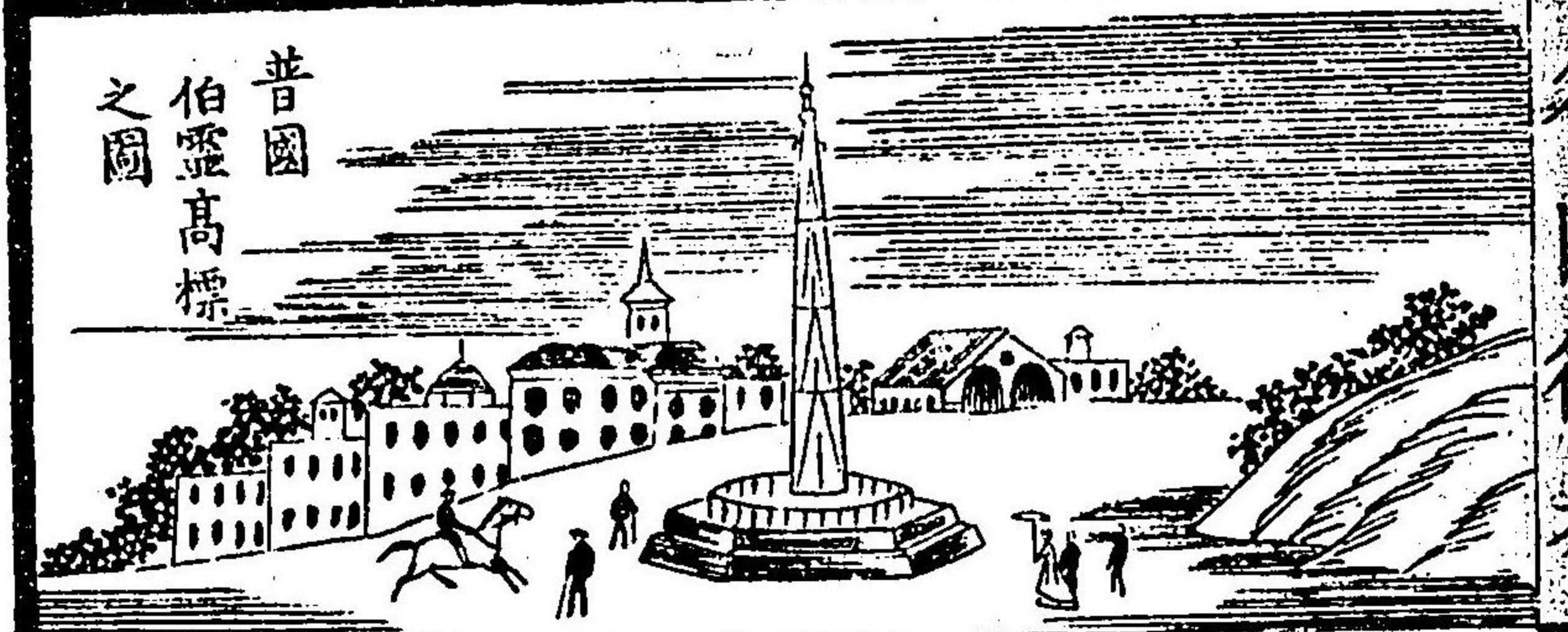
三十一

も猛虎の山野は  
荒るが如く蛟  
龍の水半は蟠る  
ふ似たり英軍の  
海戦の船将子ル  
ソンの奇策は俄  
り佛兵の陸戦の  
大将ナポレオン  
の勇略を以て歐

る教あり況て  
普通通の人民者  
都門遠處の分  
なく文字を知

土は敵あさか如  
一兩軍決戦まべ  
りざぎらを知て  
紀元一千八百一  
年英佛の和議な  
り英國の茲は於  
て國益の基を固  
守し且兵馬を整  
へ意氣揚々と

きものハ赤  
し相陸軍より  
て不き界ふ若  
名き海兵より



一室の年數あ  
 里人口百分如  
 一を規思とし  
 士衆之商の別

て國威と興張一  
 佛將ナホレラン  
 大は全權を掌  
 握一乃機と親裁  
 せざるやく國民  
 と震懾せしめ且  
 海外は武威と示  
 一紀元一千八百  
 四年羅馬法皇と

多く男子の兵  
 藉ふ入さふ那  
 一故り能る如  
 一幸あはれ又非



招き大禮と行て  
佛國の帝位を登  
りナポレオン皇  
帝第一世と稱せ  
り爾後佛帝の國  
内は新律を施し  
教育と盛より又  
武備と整へて殆  
と歐洲を併吞せ

常の大軍を起

し又事終る

兵を降し本業

不歸きあり

るの勢いきほひなり然しかも  
 ともナポレオン  
 英國と以て歐洲  
 の一大碍物がいぶつと  
 曾て之を討んこ  
 とと謀り大々籌  
 策と尽すと雖も  
 英國海軍の鋭鋒  
 は當るべしあはらざ

任まかすに油あぶらを  
 添そふ

水みづを比ひる兵へい藉せきを

脱だつして自みづか己のの職しやく

を勢いきほひありあり兵へい

るを知らず未だ兵  
と擧ぐ敢て其  
後各邦連合し佛  
帝の權柄と削ら  
んとし一挙之を  
討と雖も又敗  
ぬるを勘かた  
遂は辭と卑して  
和約し又佛帝自

隊凡そ百二十

三萬五千餘その

内四十萬まん

を常備とす

ら將として天下  
古今に比類なき  
勇武猛烈の大軍  
を起し各國の領  
土を侵略す少  
くも其後佛の  
大軍魯西亜に入  
り屢大戦して利  
ありと云くども

は國ハる来航

海の術は精加

ら其軍艦の備

もあつたは

北地キョウチの酷寒コクカンに慣ナれ  
 ぎ且カつ糧食リョウシキふ乏マし  
 一ヒトく甚シど困苦コンクせ  
 り魯軍ロクンの虚キヨと窺スり  
 て要路ヨウロに兵ヘイを伏カせ  
 せ佛フツの帰陣キキジンを待マた  
 て前後ゼンゴより襲撃シウキ  
 佛軍フツン大オホに敗績サイセキ  
 して狼狽ロウタイ離散リサンと

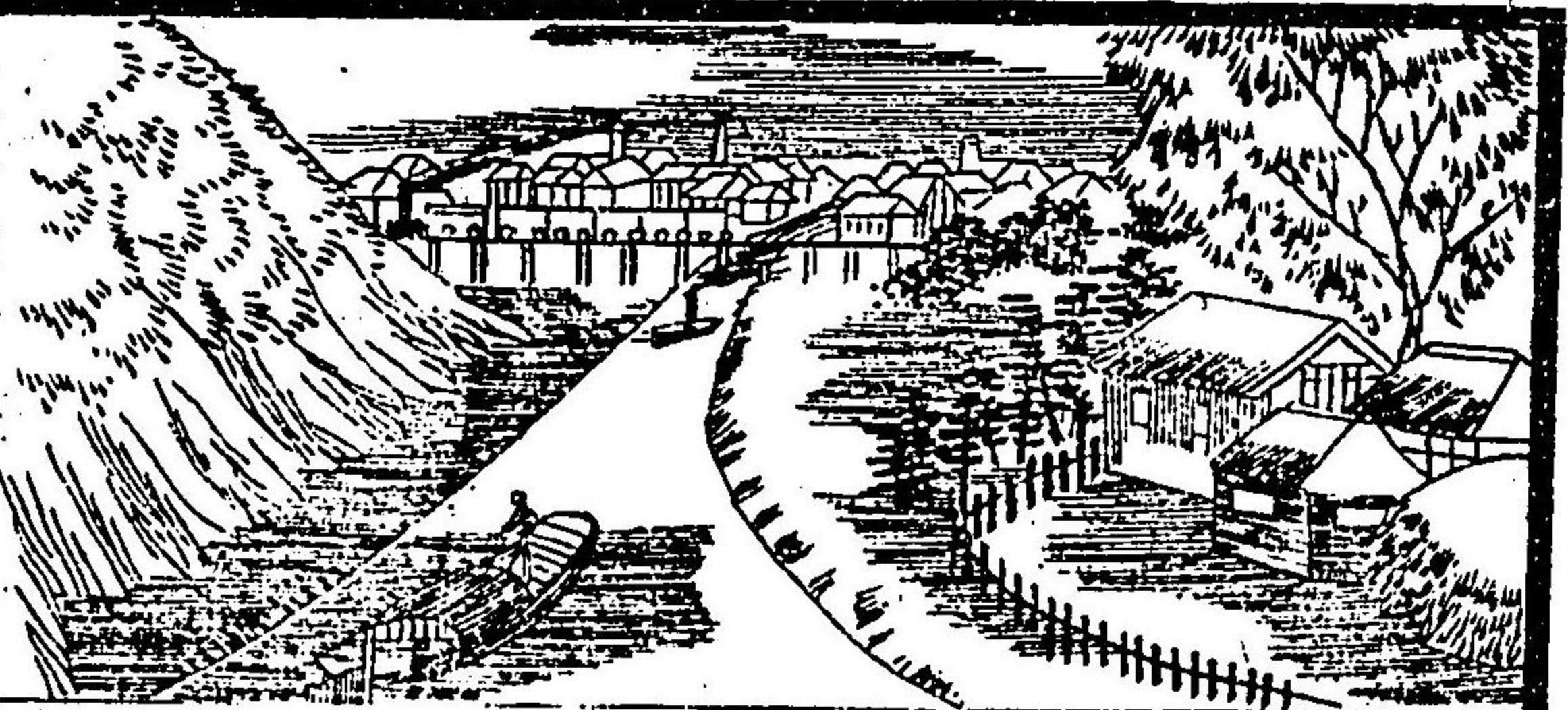
が。近來キンライ海外カイガイ小

領地リョウチを以もて大オホ

海軍カイガンより力チカラ減ヘ

要ツク。現今コンキョウ軍艦クワンガン

伯靈近郊村落之図



の全數を四十

七艘の備あり。

普魚日毎

曼中の大國ふ

伯靈近郊村落之図

曼中の大國ふ

三十一

極め其死傷算ふ  
べりしに至る  
る古の時を於て  
ナポレオン帝用  
兵の妙術を尽す  
と雖ども之を全  
く防ぐ能はず  
口と適るの思ひ  
を以て残兵を集

了。南才島山脈

縱横す通直き。

北方ハ波羅的

海也小洋ヲ枕

免生命と全して  
終る歸國も  
得たり初め佛軍  
魯國に入りし時  
凡五十餘万人  
りし生て帰陣  
せし者僅五六万  
とゆへり其後佛  
帝又兵と奉て日

み西方を地味

至て膏腴なり

古如國を百七

十年前初めし

耳曼の地を侵入  
同盟の兵之と  
防戦をせども利  
つとに然るは同  
盟の兵の日よ四  
方より雲集し佛  
の大軍と遠く圍  
で屢血戦せり于  
時一千八百十三

王國とあり。況

と著る名は國王

あ架る。大なる

威を振起し。卷

年第十月佛兵最  
後の力と極め同  
盟兵の圓陣と衝  
破りて退けり之  
より後同盟兵を  
佛軍と追て襲撃  
し至盛強大の勢  
を得て終つて翌年  
春佛の大都ハリ

版國我權し。尔。

奪破岩角一廿乃

大亂を起す。又尔

國力挫れし。て。



ス又迫り激戦敷  
田尽く佛兵と破  
りナポレヲン帝  
と生捕り同年四  
月帝位を廢して  
地中海のエルバ  
島に流しロイス  
王と迎立て佛の  
國位を即しり

領土過半失へ

を又數國を會

併し其正恢復

の際會より至

茲に於てロイス  
十八世ハ英國魯  
國奧國普國其他  
の同盟國と和議  
と講じて交際と  
厚うせり紀元一  
千八百十五年ナ  
ポレヲン竊に佛  
國に微行し人民

板圖十有一妙

ふ區分ち日哉

逐て其力を重し

國力盛大に赴

の情實と熟察し  
同年六月再び兵  
と擧げ帝位を復  
するの勢ひあり  
此時は當て蓋國  
の舊將老士帝旗  
を望んで日は雲集  
し隨て兵伍を増  
加し軍食壺漿し

今皇古昔法國

の政體を法憲

を立るる趣意は

きと然中全權

て之と迎ぎしふ

一殆と佛國ナポ

レヲシの掌中よ

落ち猶や往日の

佛帝の如し止こ

と我得ずロイス

密に他邦を遁走

せり之に依て同

盟國又大軍と募

皇王室を帰し

今皇古昔法國

の政體を法憲

を立るる趣意は

各國生来

卷之三

三十九



この地の政度小

及おと云伯雲

ハ日耳曼全國

如大都府より

リ「ナポレオン」を  
攻伐して又一場  
の大戦とあせり  
就中「ナポレオン」  
は英兵の將「カエ  
ルリントン」と戦  
ひ兩國の名將互  
に用兵の巧拙と  
競ひ龍虎の決戦

人口七十万人

子餘ありふ列

國の大政府

居一皆富塔大

彈丸急雨の如く  
終に佛軍の英の  
歩兵隊は破れ  
兵器を捨て狼狽  
或は水に溺る  
り其死傷數を  
知らず全く同盟  
兵の大勝利と云  
はるナホレラン

厦を驛立へ大  
なる市郭あり  
其周圍四里  
海所又十九の

軍装を脱し急  
他洲に奔走せ  
んとせしふ海岸  
に至り英の船將  
メートラントの  
囚虜となり同年  
七月再び帝位を  
發しアフリカ洲  
のセントヘレナ

城門を築造して  
其一如城門ふ  
ハ石柱は佳美  
の彫像をなし

各國生來

卷之二

四十一

島は流され一千  
 八百二十一年五  
 月禁錮中は死せ  
 りと云ふ其後口  
 イス十八世再び  
 佛國に歸りよ  
 り又昔時の王政  
 とあり人心を束  
 縛して甚だ妨害

其より八馬

駕たす女神の

肖像を安置せ

あり其石柱の高

つり時二千六百  
 二十四年ロイス  
 死一弟チャール

古と凡四丈餘

は十世立つ頗る  
 朝威を以て人民

尺なり皆壯宏

と壓抑する古と  
 少くは之が為

清西藩の巨觀城

民兵一挙して大  
 争乱を開き官軍

ふ一実よ人目

各國往來

卷之二

甲二

も戦すして民兵  
 は帰する者多し  
 チヤールレス十世  
 危難を避て英國  
 へ走る人人民固  
 より共和政治と  
 企望之を主張  
 する者多しと雖  
 とも人智開す教

を駭せ里又廣  
 濶大街道あり  
 了四條の区畫  
 右左の數多

化洽りけるの時  
 は當て自由の特  
 權を許せば却て  
 害ありとラフエ  
 ット氏の決論は  
 隨て同年六月  
 イスヒリツプと  
 立て即位せしめ  
 外國と交際を厚

の市店を星列  
 べ万有乃品物  
 戎飾は里と巷  
 又路は花列

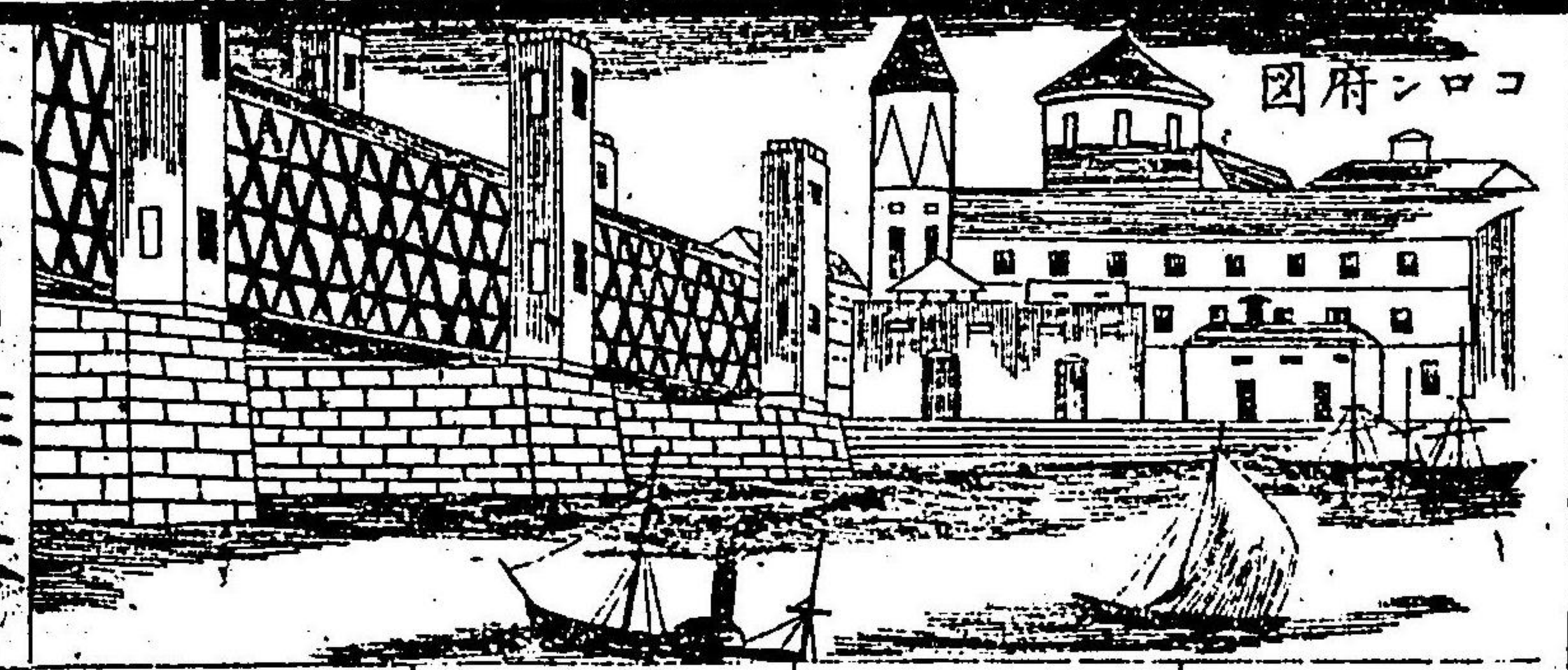
各國生来

卷之三 四十三

一 國人として各  
 の業を勧め利用  
 の基を立て漸く  
 富強の策を施す  
 雖も次第は王自  
 ら私権を逞す  
 至て民間の苦  
 樂を問とあく却  
 て人心の不平と

石を安歩車馬  
 行人も好ぶ  
 殊文難習  
 ふことと年一又

コロシ府図



貿易ハ好ぶ  
 四通八達ノ  
 鉄道あり  
 都令ハ便宜

各

釀し竟に兵乱の  
端と開き都下一  
場の大戦となり  
ロイスヒリツプ止  
得ず妻子を携て  
英國に遁走せり  
之より賢明智識  
の輩出て頗る國  
事の勉勵を共

まて世界第一  
の福地と云府  
内法科の学校  
何里し日と生

人民一和せんと  
得ず物論喋々と  
して共和政治の  
黨與多く終に國  
民一般の投票と  
以て英國に遁居  
せるロイスナポレ  
ヲシボナパルトと迎  
て同年十二月共

徒教多く生幾  
子業那も或知  
らんと其學子判ハ  
教者ありと又



和政治の大統領  
 一任ざらむきしり  
 茲は於て多年の  
 宿志と達せしもの  
 時と得て専ら國  
 家利用の鴻業と  
 開き力て人望と  
 得るの策と施せ  
 一より隨て大統

教訓の蘊奥ハ

獨善其邦は卓絶

廿里に生大ニ学校

ふ博物館の設

領の威名日々内  
 外は輝き其智略

と称せざる者ふ

大統領能入情

挙動と窺ひ突然

議院を廢し大ニ

無量の威推と得

て紀元一千八百

五十二年帝位は

あり勅物植物

廣物ホの甚鬼著

ふ角み日々生

徒ふ能氣せし

登り佛帝「ナポレ  
 ン」第三世と称  
 する。至せり爾  
 来佛の國威海外  
 へ興き先帝「ナポ  
 レ」の餘業と繼  
 又歐洲各國と度  
 視するの色あり  
 其後外國と屢干

め。祥生、理を説

向き、余其他海

軍、学校陸軍學

校、医学校物産

戈と接して功あ  
 り又去歲普魯士  
 と激戦、近世稀  
 あり大乱と有  
 佛の敗績さるの

学校製造学校

とあり、比大は邦  
 土と失ひ、強國の  
 名を辱しめ終る  
 佛帝「セダン」の地

家畜、学校牧畜

又、西院育院替

醫學、学校女學校

又、西院育院替

又、西院育院替



院 救 病 院  
 廣 兵 衛 病 院 救 貧  
 院 老 院 療 院  
 幼 院 小 子 育 成 院

於て普の陣門  
 降伏せり爾後  
 國民の論更沸騰  
 共和政治と  
 定めて普國と和  
 議と講すと雖共  
 又黨與蜂起一再  
 普國と血戦と  
 釀したる事と

一と設置  
 其く實ふ  
 盡善盡美と云  
 又處るも其道

果さば遂に鎮定せり然れ共尚其徒黨相仇視して國內全く平穩あらず嗚呼共和政治の能幾世と維持すべきや未だ知る可らばと云  
佛國略史 大尾

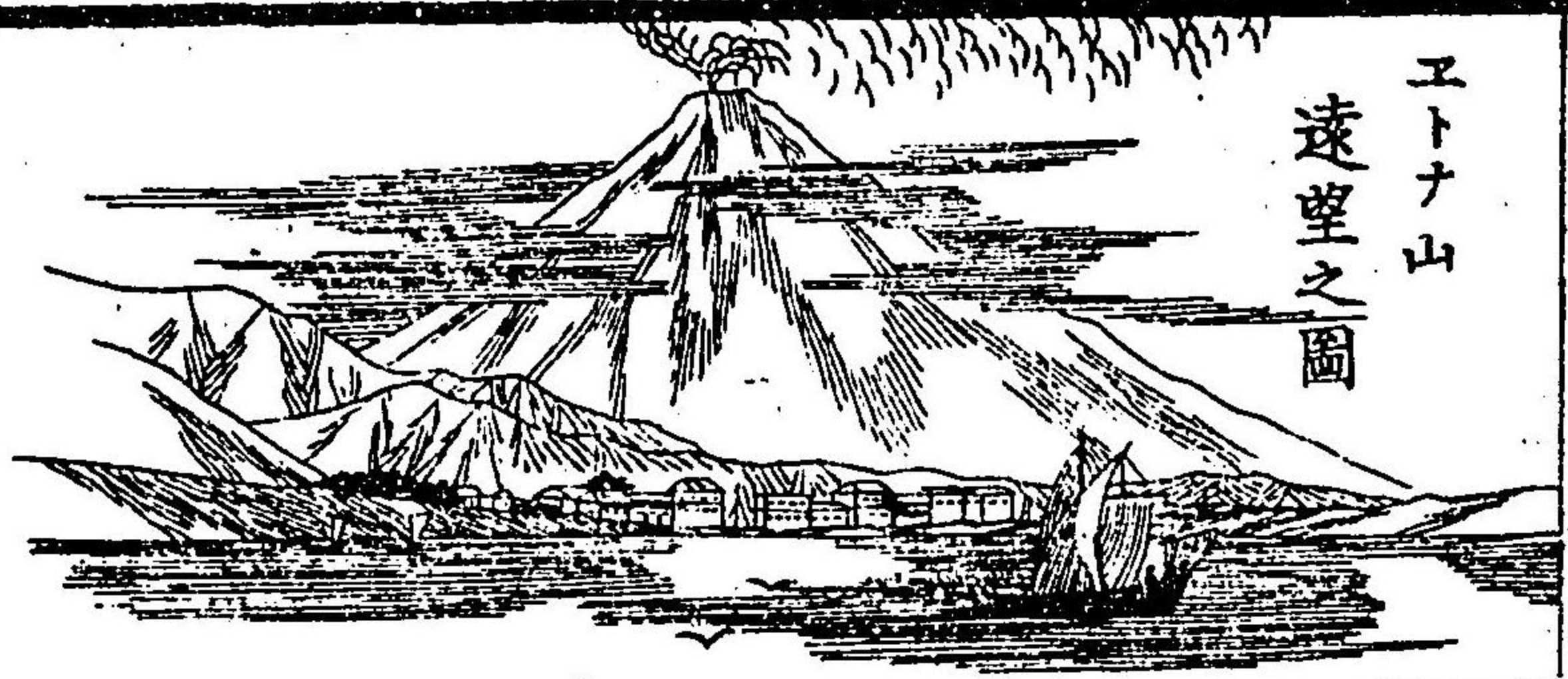
の坊所ありて  
皆美器巨大なり  
して蒸氣器械  
如三叉を用ひ

日耳曼畧史

此の國太古の蠻野朦昧ありて其の初分明あらば然れども羅馬大まこの邦土を侵して屢干戈を交せれども征する能はず其後終る

木鉄の器器械也  
革皮綿帛毛布  
麻布の種類を  
製造し又磁石

エトナ山  
遠望之圖



乃苦具雷操ホ

の素造場あり

てる有の物品

成衆出ー成

羅馬の所轄とあ  
まり降て幾數年  
の星霜と経てル

イスドイツル初  
免てこの國の王

とあり皆封建の  
狀とあり大小の

邦土は分畫せり  
その後チャール

その後チャール

切の神妙なる

福里美名を檀

平せわ方今日

耳曼の大小二

ス王ルイス王コ  
ンラツト王の三  
世を経てへヌリ  
王に至り善く政  
度と治め兵制と  
正して外敵の侵  
入を防ぎ海外は  
武威と輝せりへ  
ヌリ王死し太子

十五邦を載す。

其の  
大  
解  
き  
の  
如  
し。

普魯士

立つるをオツ  
ト一世とす豪邁  
の英傑ありて善  
く兵を用ひ且つ  
他邦の兵乱を制  
し遂は日耳曼帝  
の始祖とあきり  
其後コンラツト  
位は即きてより

王國より地

方二萬のや

八十方里人

口二千人に百



内乱と生一戦争  
 止まず諸侯各の  
 自立一或ハ日耳  
 曼帝ハ叛きその  
 後諸侯大軍と起  
 して他邦と侵し  
 又十字戦の大乱  
 あり紛擾相起り  
 戦争甚ハ關ふり

二十一万五

千あり。首府

を伯盡と云

已威里亞

五國より土地

方四子九百

三十万里人

口四百八十

フレデリック一世  
世速征一水中  
溺死一又フレデ  
リック二世に至  
つて後又争端と  
開き其後民間蜂  
起一互に吞噬一  
且つ政推更地  
み墮ち國帝なき

二万四千餘

首府を慕瓦

克と以ふ

尾敷堡

こと數十年あり

一がルドルフは

る者を迎て帝位

は即しめりルド

ルフ帝大は入望

と得て他邦を兼

統むると雖ども

諸侯互に争乱と

あり國內平穩を

五國ふて地

方千二百九

十有里人口

百七十七萬



らほ之を依て  
へヌリ七世を立  
て國帝とて國內  
七名の大諸侯を  
封じ権を重し又  
高僧等を封じて  
諸侯とせり其後  
シバスモンゴ國  
帝の位を登れり

ハ子余。

薩索尼

王國とて地

方子百二十

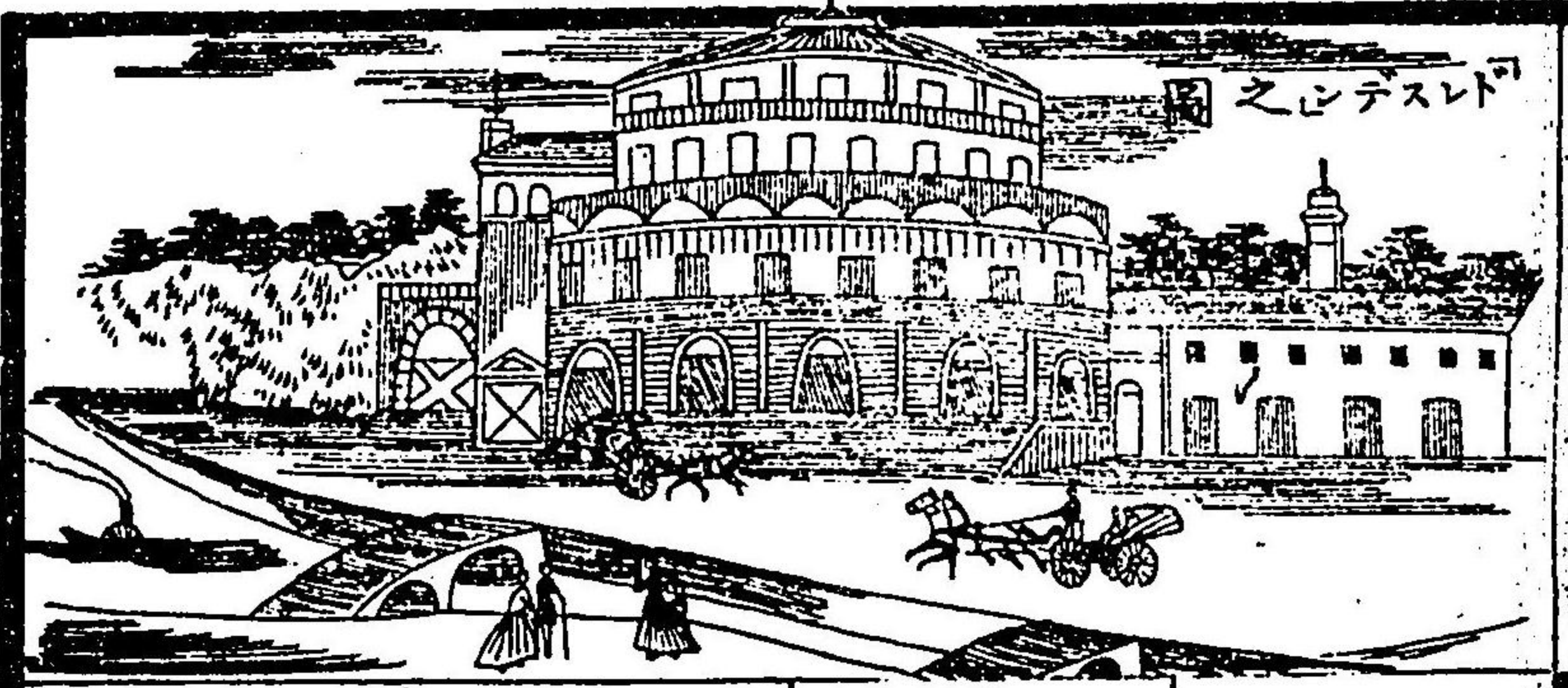
在世の間諸侯貴  
族等興廢存亡あ  
りと雖とも大  
争乱あり帝歿  
して後アルベル  
ト及マキシミリ  
ヤンの世より數  
百年の紛擾平定  
し政令國內を行

方里人口二

百四十二萬

四千。

巴了



公國有る地

方九百八十

方里人口百

四十三系五

子

梅路後堡州案

公國有る地

方八百十二

漸く鎮静せ  
り次て「フヒリツ  
のせよ至り其  
のち「チャーレス  
五世西班牙を兼  
統して二邦一帝  
を遵奉し國力盛  
大とあきり然れ  
とも佛王「フラン

シス一世起て互  
 二威力と競ひ大  
 二戦闘せり且つ  
 新舊の宗旨論起  
 り徒黨と結びて  
 争乱と醸せり日  
 耳曼南部の各邦  
 これが為と屢々  
 干戈と動せりチ

方里人口五

十方里

西

公國と地

方里八十

方里人口八

十方里

河傳堡

ヤーレス帝新教  
 の黨與と征ま  
 能く其後帝の  
 弟と立て帝位  
 即ちこれを「  
 エルジナント一  
 世といふエルジ  
 ナント一世及マ  
 キシミリヤンニ

世の時代に至つて管内平和は赴きつりと雖とも尚不兩教の徒相仇視して紛擾ふせり「アエルジナ」ト二世の時よ及て各國合兵して兩教を相ひ助

上玉りし地

方四百六方

里人口三十

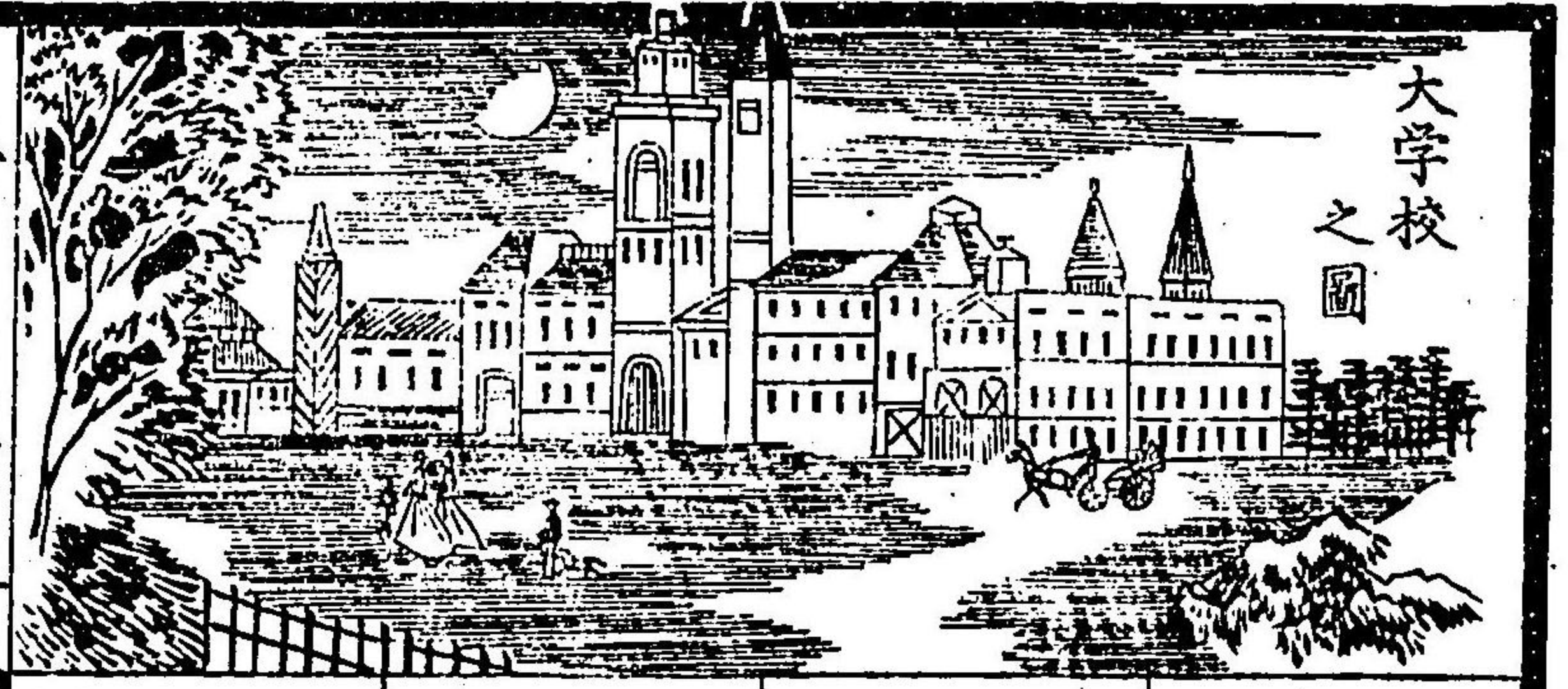
一万五千六

百餘

不備瑞

公國は亭地

方二百五十



大学校之圖

け歐洲三十年間  
の大争乱をふし  
遂に和議を結て  
兩教並ひ行せられ  
全國の戦鬪鎮平  
せり其の後レラ  
ボル帝位に即け  
り次てハンガリ  
國の帝に反逆

六方里人口

三十一萬二千

八百。

薩克威密

トルコ合兵  
壤地利と激戦せ  
り壤國の他の援  
兵に依り終に賊  
兵と征伏せしめ  
土地を復せり  
又西班牙國王の  
相續に當て内乱  
多端あるを窺ひ

公國より土地

方三萬二千

八方里人口

三十八萬三

佛國兵を擧て押  
領する事甚  
く次て「チャーレ  
ス」六世に至り嗣  
子「查理」依てマリ  
ヤテレサを立て  
女帝とす之が  
め争乱を生し止  
むことを得ず女

子傳

回連堡斯德勃

薩克每恩縣

薩克各堡家田

帝を廢して「アラ  
ンシ」一世を迎

安合

薩克聖敷堡

皆之等ハ小

て帝と一ニ邦を  
合併せり其の後  
普魯士國「フレデ  
リッ」キウイルレ  
ムトの時代教宗の  
争乱を好機會と  
して大ニ土地を

國一土地

ミエツキ府  
大像之圖



方百六十

里より又人

口ん凡二十

葉子及と

ひろ 富國強兵の  
基を固一國力盛  
大ニ赴きフレデ  
リツキ一せ至  
り終み王國と未  
きりフレデリツ  
キ二世ハ埃地利  
國と屢々戦を交  
へ一時和親と結

禮耳德

里卑手的門出

衆瓜堡利徳達

衆瓜堡才協儼

と雖とも更は奥國及び其他各邦の大軍と激戦し七年間を費し互に勝敗して終に和議を約せり日と逐て普魯士の國力次第は盛んとなり赴き歐洲一大

留士列

燒良堡里布

百士以有

皆之亦其小

強國の名を得たり又佛帝拿破崙の大乱は依て普魯士奥地利の二邦も大は領地を失ひ其後ナポレヲン帝の大争乱平定して後各國會議し境界を定

邦

地方凡六十

方里人

凡七葉日滿



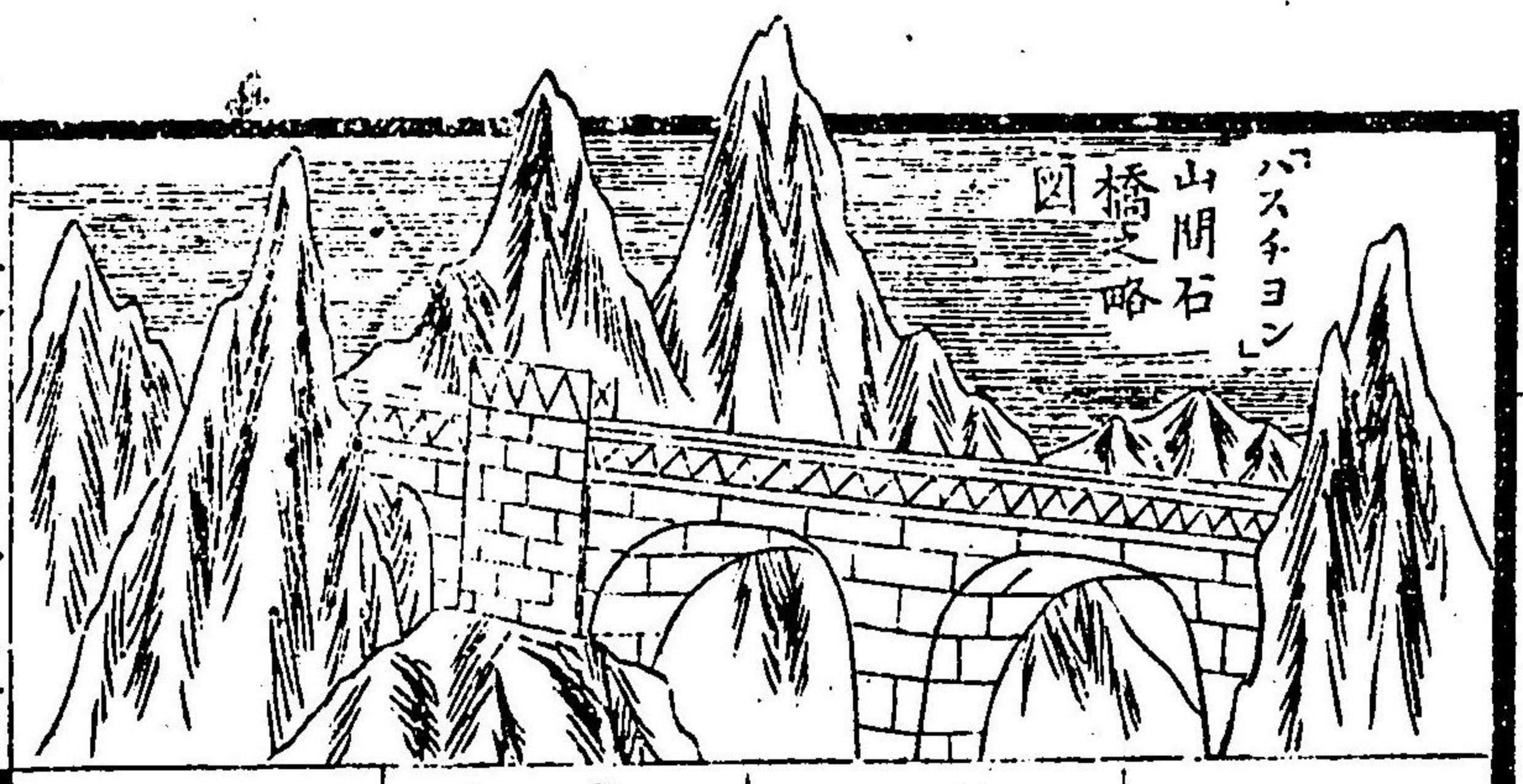
めて各の旧地を  
 復せり爾来日耳  
 曼同盟國となり  
 各國の公使會同  
 一 埃國の公使を  
 以て盟主とせり其  
 後埃普の二邦不  
 和を生いて争端  
 を發し漸く平和

各の舊地を  
 復せり爾來日耳  
 曼同盟國となり

各國の公使會同  
 一 埃國の公使を

以て盟主とせり其  
 後埃普の二邦不

和を生いて争端  
 を發し漸く平和



山間石  
 橋之略  
 巴斯チヨ  
 ン

山間石橋之略

早堡

律北走

尔来西

各國往來

卷之三

三

さうと雖も塊地  
利以太利の間  
戦争起り以太利  
佛兵の應援を  
得て大々全捷と  
得り普國の文  
学と講究一兵制  
と一變次第は  
國力と盛大にせ

此三邦ハ最  
も小にして  
五候の國ハ  
あらはに名

然るも塊地  
國の間更は争乱  
起りて屢々干戈  
を交へ英雄豪傑  
の屍も原野に曝  
し五は勝敗あり  
終は普國の塊地  
の大軍を破り各  
邦を亡して普國

大統領或立  
て僅少の地  
を管轄せし  
む。都令ハ

各國生来

卷之三

六十三

は附属せし免和  
睦と約するに至  
りて煥地利を  
て日耳曼同盟と  
除却せり普國全  
勝を得日耳曼南  
北の二部を統一  
するの勢に至り  
又去歲佛國と大

互て山あり

火種とも駒

通る交るも

怒るなる里國

人ハ工藝牧

蓄の業を勢

と。数種の物

産ありと云

戦ありて佛兵大  
敗し和議を講し  
普國益々國威至  
盛強大にして終  
は現今の普王ハ  
ルレハ帝位に登  
りて日耳曼全  
を統轄し武名を  
世界に擅せり

9660  
11  
45268

卷菱潭出

院議衆  
15.5.22  
圖書館

癸兌

東京室町三丁目

紀伊國屋源兵衛



特70

74

國  
史  
記  
卷  
之  
七  
十  
四